

在宅医療コーディネーター養成研修会スキルアップ研修報告書

開催日時	平成 30 年 1 月 10 日（水）18 時 35 分～20 時 40 分
開催場所	高松市医師会館 2 階大会議室
参加者	<p>当日参加者 37 名（申し込み 40 名、当日欠席 3 名）</p> <p>本研修は第 1 回～3 回の養成研修会参加者を対象として案内し実施。 任意参加で、先着 40 名で公募して実施。</p> <p>（当日参加者内訳：在宅医療コーディネーター養成研修会第 1 回修了者 8 名、第 2 回修了者 11 名、第 3 回研修会受講者 18 名）</p>
内 容	<p>【テーマ】</p> <p>自分らしい選択を支える意思決定支援 ～意思決定支援に必要な基礎的なスキルを学ぶ～</p> <p>【内 容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思決定、表明の支援とその重要性 2. 意思決定を支援するための共感とコンテキストの理解 3. アドバンス・ケア・プランニングの理解 4. 対話力を高めるスキルと態度 5. 支援者に必要な傾聴とコンテキストの理解、意図的質問の仕方 <p>【講師等】</p> <p>講師：片山委員 ファシリテーター：4 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションたきのみや所長 尾崎美智（訪問看護認定看護師） ・済生会松山病院訪問看護ステーション総括所長 三浦雅美（緩和ケア認定看護師） ・香川県立保健医療大学在宅看護学助教 諏訪亜季子 ・訪問看護ステーション Q ちゃん 訪問看護師 濱崎彩子
結 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>意思決定、表明の支援とその重要性</u> 意思決定の前段階として本人の意思表示が必要であること 意思決定を困難にしている課題を取り除き意思決定できる条件を整えること 日本人は表明、決定の両方について文化的、制度的にも困難性が高く支援が必要 意思表示、支援の基盤理論として生命の二重性理論の理解が不可決 2. <u>意思決定を支援するための共感とコンテキストの理解</u> 意思表示支援におけるナラティブを理解する意味 意思表示支援は、支援者の聴き、受け止め、応える共感の積み重ねが重要 3. <u>アドバンス・ケア・プランニングの理解</u> アドバンス・ケア・プランニング（ACP）は信頼関係の構築が基盤 ACP の成果物としてアドバンス・ディレクティブがあり、AD 作成が目的ではない ACP は対話を含む対応プロセスで、人生の軌跡の理解と病状予測が不可欠

	<p>4. <u>対話力を高めるスキルと態度</u> 対話力の向上には傾聴スキルが必要：2人ペアになり傾聴の演習の実施 話を聴くことが下手な人の特徴：自己の価値観の広がりと感情の整理の必要性 共感と同感の違いを知ること 対話力の低さ：コンテキストのずれを2人ペアで体験演習</p> <p>5. <u>支援者に必要な傾聴とコンテキストの理解、意図的質問の仕方</u> 対話する姿勢と積極的傾聴をするための位置とリアクション 注意すべきブロッキング 対話スキルを向上するための4つの習慣：対話の最初と終わりの質問のかけ方 対話の中で支援者が陥りやすい誤り</p> <p>意思表示・決定支援に必要な基礎的スキルとして傾聴、対話を中心に講義と演習を行った。研修会参加後に自施設において伝達講習会を開催するなど研修内容を実践に活用できるよう取り組んでいる参加者も見られた。</p>
--	---